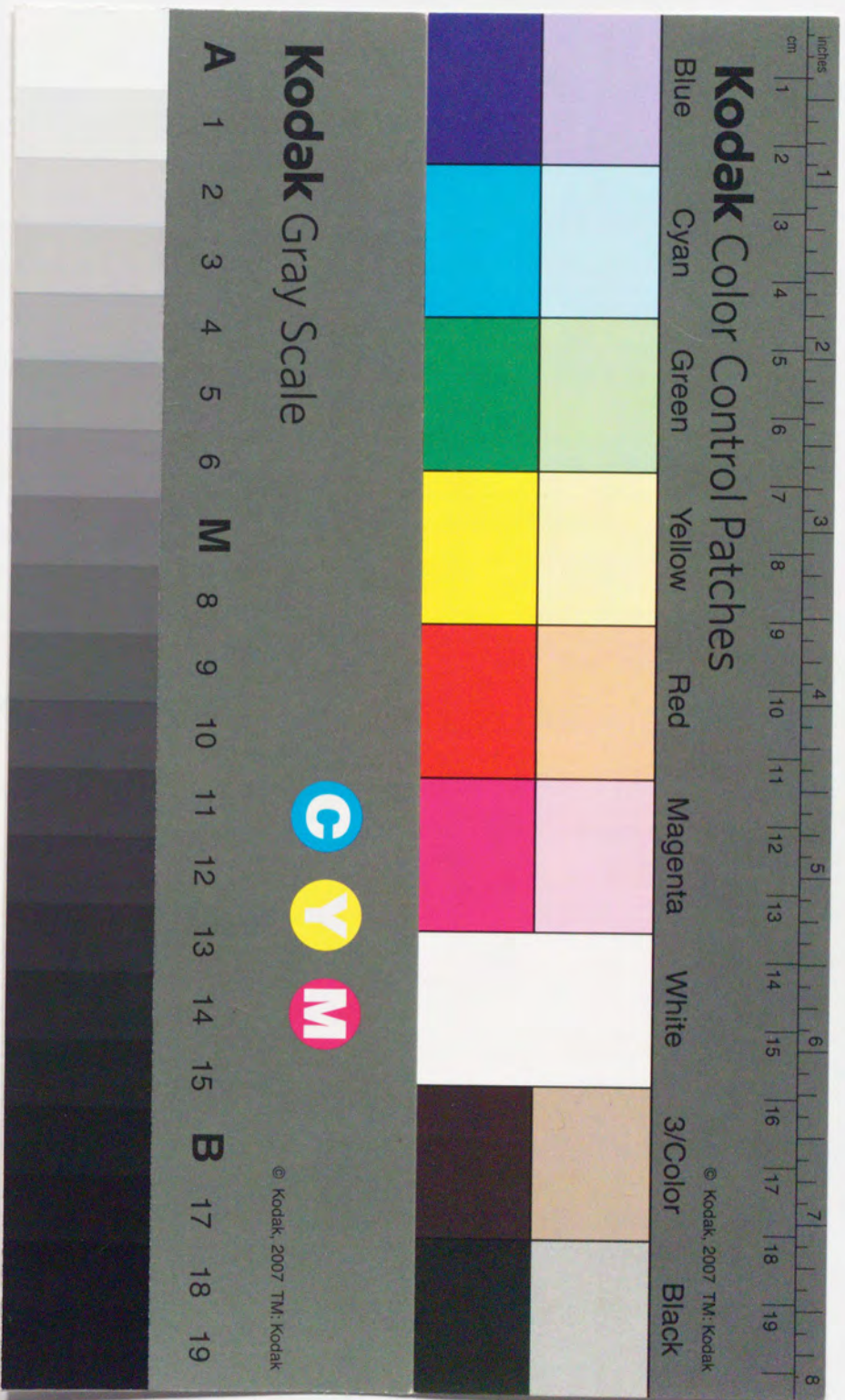




東都 式亭主人三馬著
歌川豊國畫

畫圖俳句 三階興

春

仇優畫三階興

自序

如何祖師西來意楊柳綠花紅の串童相子。
念戲無性と戀々と、五戒を更に構ふは執開。
逢唐さんご君歌妓如意ふとあゝを。
直指の精指酒令人心と和らるゝの狂。
不立今節は討帖み九季な人ぞや。
也即是空と悟とあるは、やうく是色と。
見倡成俳の臥房は情堂大悟の眼と。

永

及ありんや怎生麼大戲場優首は坐凳小居
戲房の壁より看殺行厨器の座禪豆空寂
の賣茶飯禪十二因縁と親とる兩脚が屈曲
被教坊大王哥も看場の毒言やと因果輪回
老大機關から生前馬兒は後御も現在連三角
乃外套と破る未來裁方の鼓兒と撃夫角
此と想ふ開場の聲威是戲沖場花煙花粉黛
終場の叱咄罵説も即現世過古未來都合
三世の三坐勾欄彼欲界は副淨色界の演妻戲

生且先色界の蒼鵲料譚も開講の末より難進
應有る三昧大穿世界定編戲文漢院本眼藏の
讀音在来無常の青龍白虎の二棚はあつた
くまふ人山人海も遠方衆生は拂子と放た近
便る縁覺に悟故十方は衆有人東抗西尋有偏
跼より元海縁子通鼓門道を迷故三階
素臉の寫真も西土人の題號と借了新
小説は笠翁卓吾も異る在下の乖
全然と無き夢の見えは禪納の白隠

磨面唱と衆生と度し優魅乃白猿ハ夷曲とく
世々の見佛聞法と云と其云ふ曰三つは世と
うつと理や生死流轉を火速粉して嗚呼雅
あつれ依優の才子風流勾欄の在行止坊
夫戲貨花と夢み銀箔乃月ハ曇ちみ
のしる物り音も香もなき朱雀棚に悠然とく
三角紙の雪を眠壁あけし観法の床に座さる言寄語
譬喻方便替佛來に因縁と悟るべし無愁の
涙は六塵の方對場は猶豫放逸は白看的五
欲の對臺棚に狼狽む知識名院子に道と問
こそ本覺は舞榭とくむる難くぬし。吁
真個迷心少悟道れ两个衙衙浮世は茶坊
乃こそ小二玉手が響から酒提と悟る少
云雨維音寛政康申の霜月其演戲
發談とく頃書屋は需ふ應

式亭三馬戲

俳優三階與附言

切落しあをり凡例

○ 骨小俳優室通二篇と著述と幸に一行一日は書林の
欲心坊予草廬以来拾遺と編と需む因辭と曰
和漢の羣書汗牛充棟其聖賢の貴き書とて後編の
前篇と勝る又といふは巧案大まふ不ち来く
とすのね板元を後かきき帰し止むをねど終る歌り
豊國とて伎子素白の寫生とて再び来るる題
乃い小説と附録と入るは巻と用く大は笑あるる
板元肝とはぐも顔色とて先生け画帖と閑く何れの可咲
あや答云左あはど思下志とてや似白繪の祖る友
勝川春章役者夏代富士通著とて書とあつて當世

書更だ丹青を加へるは是と又古しと言はれ赤面成て顔
筋限とあへ不係折角頼中來と新作と清令とに秘藏と板
小惡名と解とて了簡成とてれ人あつても言せりよ
かつ懸念れ才と相と新作と書れてもあな落とて世上賣とて
とて文盲と古の物と焼とて切落し向とて紙第一とて故
に賣とて妻と見えとて智者も千とて一失あれは
愚者も一得とてねとてあなせぬ室同はとてあなに妻
がけせとも高き戯作者とてあなとてあなとて書と
と美眼の風景とて後世と美とてあなとて程の大業と
夫やとて新古といふとあなとて賣とて方
ろとてあなとてあなとて更とて一句も出とてあ
ち最とて終とて後とて一部の書とてあな

見^みる^る物^{もの}芝^{しば}居^いの^の出^でを^をと^とつ^つる^る清^{せい}女^{にょ}言^ご葉^えと^とど^ど目^めき^き役^{やく}者^者
素^す臉^{せん}の^の字^じと^とあ^あき^き先^{せん}手^て物^{もの}故^こ——市^し川^{がわ}六^{ろく}代^{だい}目^め三^{さん}年^{ねん}
奇^き々^々故^こ國^{こく}の^の島^{しま}巡^{めぐ}と^と附^つ録^{ろく}と^と貞^{せい}趣^そと^と讀^よ本^{ほん}の^の和^わ莊^{しょう}
素^す手^て子^こと^とど^どい^いて^て俗^{ぞく}と^とち^ちと^と小^{せう}説^{せつ}と^とど^どい^いて^て書^かけ^けて^て
あ^あ夜^や話^わの^の秘^ひも^も多^たく^く免^{めん}れ^れお^お痛^{いた}仕^し度^どれ^れ方^{かた}と^と休^{やす}ま^まる^るあ^あバ^ば自^{みづか}
ら^ら心^{こころ}と^とど^どい^いて^てむ^むの^の友^{とも}あ^ある^るべ^べし。

役者夏の當士の初懺^{ういせ}比^ひ三座^{さんざ}手続^{てつづ}と初^{はつ}眠^{みん}柳^{りゅう}雛^{ひな}成^{なり}田屋^{でんや}
と改^{かい}名^なを^をれ過^あに終^{はつ}る是^{こゝ}先^{せん}年^{ねん}故^こ人^{ひと}離^{はな}助^{すけ}に戸^こ下^{した}の節^{ふし}夏の當士^{とうし}
のまを尾^おあ^の以^も以^も滑^{くわ}へ。

やーやび れい ませ
 役者附の例は使てゐる
 画^え中^{ちゆう}名^な面^{めん}と云ふは故^こに繪^えのむ
 へい あつあつ
 東^{とう}ち^ち産^{さん}とありて是^{こゝ}も又^{また}國^{こく}の境^{さかい}と云ふは内^{うち}鼻^{はな}が高^{たか}きや團^{だん}十^{じゅう}

郎と受くる田丈野娘あゝ栢延助高層が方づうの跡り
 まゝ家老よりあ長中車の昔咄り涎を流とお局さる迄今
 役者のいさゝか見えんぞと

役者上中下混雜して次第と名づるべし勿論校合全うねば
當時休座或は旅行或は脱漏する役者最もあらず
拾遺三篇奥よりわづらひし人妻をさして又もさし置く
舞其玉扇夏井 高士 小室を道平曰

浮村訥子を始め大江戸に取交の役者近き頃
 浪義新町の區二葉と云ふ餘も推して
 け書全部成るに二手故障あつて出版
 杜若辭蘭耕の村の掌既も没せしむ改め
 珠々高名の役者ありバサアに画本をうけり

○ 役者附の例は、ヤーヤフ れい ま せ 倣てゐる。
 画中、名面と云ふは、えのう やく やのみ 意のうやくやのみ、
 試み、うま え 試み、え え 意のうやくやのみ、
 繪ありむ。

ふくしきもくもくは戸子芝居通は見えろにあはれ
あつぬのくち
東ち産もあつてさきふ国の境をけん内鼻が高きや團十

郎と受くる田丈野娘あゝ稲延助高層が方づうの跡り
 まゝ家老よりあ長中車の昔咄り涎を流とお局さる迄今
 役者のいさゝか見えんぞと

役者上中下混雜して次第と名づるべし勿論校合全うねば
當時休座或は旅行或は脱漏する役者最もあらず
拾遺三篇奥よりわづらひてあらん要なきと云ふもさう
舞臺裏面夏井高正とあると通平同

浮村訥子を始め大江屋取手の役者、近き頃、
浪義新町の區二葉と云ふ餘も推して
け書全部成るに二手故障あり。出版
杜若辭、蘭耕の仲村の筆、既に没せしむ。改め
珠々高名の役者あり。巴里にて画本をうらぐ。

名人上手れ侍とあそびと作者の一人の老徳心なり

例尾 新下り復者のちと東春
早く虫如く可なりぬ上

ハ文舎流
けまご子お耳にへる本



来戌の正月二日より賣出—中供

歌舞伎訓蒙圖彙

全部五冊繪入讀本
東都畫巧寄合書
式亭主人三馬著

京都大坂の劇場をハ文舎自笑ニ港ニ更ニ言ハ東都三座の劇場ハ一箇ハ
國ハ見立て唐土訓蒙圖彙ハ比—部類と乾坤時候より始メ數量言語
ハ遠十三門より東都浮世繪の諸名家より細畫と云々ハ
傍ハ戯文の注ハやと—ハ人テハ先賢ハ諸説と國風ハか
ヲ書して億説と云々ハ實ハ劇場の大全見切者未だの辨疑ナリ
芝居通ハ君子見んハあべり—と云

板元

天曲商音粉演就千古興亡勝負

素手粉粧
風流花月
紅粉佳人
清歌雅興



數聲越調粧點出百年離合悲歡







市川團藏



市川團作

市川團藏













今の今より鬼もむしと豪傑あり東夷南蠻北狄西戎美
々荒大地乾坤のそれ同よある人どある役者の魁首
かの都か江戸市川の藝名元祖才牛より連綿して六世の孫大
極上と云はれ萬々顔して此道の掃者あり五代目の市川鯉兵衛
の名を白猿より一十年世と一牛島一のりより一
氣儘の夷を連ねて銚子のついでに文をいれて
い雪雪のふもむきとまひまの流しは花とて本母寺の石
はとて秋葉の山よりけ入るるむと需んずはあひ三圍
の御手洗より身と洗を常盤上とて老と云ふいふ中橋の
仙といふも云ふ及ふ一鳴呼はるありて子あり実子固
才郎と相續して四六代目の容貌美醜のは夫宋玉もあひ
とて隣の内へけ返る彼色男の葉平もあひて之のち
いふ定て耻とのさして骨を折るの甲斐あるあはれ様

貝貝の徳あり新屋の御用も重なり忽ち此世はあひ
いふ今固しとてやとまはしとて和柔順天は大地の
あり好む書画と彫びふりあはれ冠の坐頭は是と
古今好むといふ古拙蓮の再誕成田の不動の化身と
世とて貝貝の貝貝の人山とて發の地の紙より
も價とて幕畫の揚枝とて岸左の尾上とてあはれ
ふ人秘するにわが岸の岩ありと似真接するといふ
ふ心をとて都を方若寧とてふ柳とて人紋のふと
ふ之銅行燈のあきとて回とてあはれ家の
ははさるの銀煙管よりとて新妓の煙色
ははさるの浴衣の色は海客とて教妓の細腰
ははさるの腰帯よりとて乳母の棚尻とて娘の
ははさるの金時画の鶴は頼朝公もあはれとて

ちよ定業の役廻りもさうもナリ 思ねんあき若ひやへりま
せぬうゝ相違の拍子なる遠なるれ有異博愛の道具をぞ
と見の夏のむく手も今いふやうなつぐも終へてしまふも
らゝりくともむむるゝあはれき水と愁傷の涙と五月雨の終
るかく市川の水もさうもさうつづるゑてあゝ三升もさう
ぞも飲水浄土の翁をよめて蓮の庄頭とあるゝゝ歌離
攝土子の親玉おいか手向の唱名と現世のジヤゝと異あゝ
思ひきや銀銀鉢のゝ町讀經のゝゝとさうけ
よ引道すのせうふ思とせんゝゝかりゝ程はさう群る春
後の男女大路は満くゝ老若ハ教主世尊跋大にの波
よき人ゝいゝゝやゝゝゝ可憎嗟ゝあゝのものゝかゝ
きさけぶちゝる目も何とてゝ小ぬ風情ありき

第二回

さう程小市川三井ハ夢も形く現もあゝ風雅でもあゝ西
落でぢやゝゝゝ山坂を十萬億さゝ千に何やゝゝや
嶮き剣山六畜獄乃馬も幾せゝ城もされぬ三途川も川止
あゝ時ゝ通駕も埒月とゝ一生の智慧と出て彼替紋乃
鶴止はゝ何国成ても半天に翁さうとゝゝゝゝ
の島もさゝゝゝ浪のちゝゝゝゝ
と音く足りん和在るもゝゝゝゝ
はて大千世界の垣根の外陽を来の別業ゝ其国の風土
と窺ゝ僅土も何とて日本でねゝ繁栄余國よりふ
方かく晋の始皇がはゝゝ必ぞ徐福みちもけけ
へまゝ生るゝの仙都さゝ表州ゝゝ処の人物のゝ
見るゝ本綿の羽織あゝゝ草羽織を着てゝゝ
ゝゝゝ又傍ゝゝ黒の半襟拵ゝゝゝゝ

東國といふに、太夫が岸に猪子の峯あり、
 道と傳ひて、禁よりし、鶉あなる内、廉の園新
 指の左右より、花道の橋より、
 山雲の情より、
 一ト度で見のる、諸の万事、客の風、
 て、二三百社を、
 神道の教を、
 諸の道念と、
 絶頂の、
 是の、
 池あり、
 池水と、
 怖、
 舟の、
 商人に

まきの賣声。淀舟のよどみなく。おんざうより。茶をより。
うは幕のひげ。瑤璃弦。本番付あつむ。石より。おどろ声。
おどろく。あやどり。うらやも。ア。舟をより。うらやも。ア。かこ。
一。松風燭。紅より。ふさぎ。長短の因縁。鳴。ア。のほどせ。
ま。いと。物子ありて。あり。や。本番。巻の都。下座。門。の。
表。羅漢。臺。より。高。ま。産。み。おどろて。因縁。と。二。え。え。
ふ。ま。切。幕の。法。よ。ま。り。大。入。船。を。おどろ。の。奥。海。と。過。る。
船。下。より。う。幕の。遊。二。色。の。布。を。ひく。ご。と。滝。壺。の。
り。ふ。上。と。下。と。あ。り。る。う。の。像。あり。あ。や。も。同。い。れ。
近。き。以。條。塚。浦。を。つ。る。者。願。う。お。あり。直。大。れ。を。就。
お。り。く。と。ぬ。く。ば。膚。よ。イ。ヨ。は。上。大。名。人。の。像。と。判。じ。と。う。
辨。舌。流。る。り。懸。け。も。う。ぶ。べ。に。截。岸。高。の。公。り。も。と。れ。
ふ。い。り。り。東。西。く。漲。り。と。や。氷。の。出。が。あ。り。く。時。よ。の。

どんど土人堤を切落が衝へかじりて。ば衝火煙蔓を成りて。突
 らんぞも底の隈にもまじざる魔所なりとて。おろく理りたる異
 形の鳥飛びにけり。只さらのねをとりき事。頭は密掛九年坊の皮
 似く尾は紙をひきたるが如し。目鼻とおぼれぬあけて。飛行自
 在の化鳥あり。或時嗚呼者。此化鳥と追治とせきて。青竹の勢ハ
 強く。下切土襷を嚙んで。南天酒三鉢五合と云信に。金相大乃
 神よりあつて。あつてふ事やとて。こころ念じて。三三三三淵底まで
 り。今小石名義や俄小強しく夥しく入声で野がけのうぞい。予がれな
 どぞく。ア、あつたも早くおけいといはよ。わめくこととて。あつた。
 まる腕骨とて宙よりげうり。まされ。虎をも令へ物し。やと外
 皇朝本病老の邪ふ。あつたの名玉告げたり。ろろ雑沓。道とて
 ら物。ゆくとゆくと。まづ樂刀。下とて急ぎたり。

優優三階具附錄卷之上終

